

## 長崎県観光動向調査 (平成30年4～6月分)

### ● 主要指標

平成30年4～6月

	対象 施設	延べ宿泊客数 利用者数	H30-H29 同期比	
			増減率	増減数
主要宿泊施設	157	1,142千人	+2.4%	+26千人
主要観光施設	26	2,273千人	▲7.7%	▲188千人

	主要宿泊施設 客室稼働率	前年同期比 (ポイント)
4～6月累計	65.7%	+0.8
4月	65.8%	+1.1
5月	69.8%	▲1.4
6月	61.4%	+2.6

### ● 概況

- 主要宿泊施設の宿泊客数は、大型施設の閉館・休館により対前年減となった地域はあったものの、県全体としては新規施設や昨年休館していた施設のリニューアルオープンの影響が大きく、また、ビジネス需要が堅調であったため、4～6月期全体では対前年同期比+2.4%となった。月別に見ると、ゴールデンウィークの日並びの関係で、今年の4月は堅調であったが、5月は対前年減となった。
- 主要観光施設の利用者数は、ゴールデンウィークの日並びが良かった4月は対前年増となったものの、5月、6月は天候に恵まれず、また、昨年は「ジブリの大博覧会」の開催効果で一昨年同期の約3倍を集客した長崎歴史文化博物館が大幅減となったことなどにより、4～6月期全体では対前年比▲7.7%となった。その他の個別施設では、今年4月にリニューアルオープンした雲仙岳災害記念館及び企画展が奏功した長崎県美術館の対前年増が際立った。

## ブロック別の主な増減要因

### 【長崎・西彼ブロック】

天候不順の影響などにより、4～6月期全体の主要観光施設利用者数は軒並み対前年減となった。宿泊客数は、4月に昨年リニューアル工事などで休館していた大型施設が堅調で、4～6月期全体では対前年同期比+0.9%となった。

### 【佐世保・西海・東彼・北松ブロック】

天候不順の影響などにより、4～6月期全体の主要観光施設利用者数は軒並み対前年減となった。宿泊客数は、ゴールデンウィークの日取りの関係で4月が対前年増、5月が対前年減となった傾向が見受けられたが、佐世保市において6月に団体客が堅調で、4～6月期全体では対前年同期比+3.7%となった。

### 【平戸・松浦ブロック】

松浦地区はビジネス需要の変動により対前年減となったものの、平戸地区は昨年休館していた大型施設のリニューアル効果があり、ブロック全体の4～6月期の宿泊客数は対前年同期比+26.7%と4期連続で大幅増となった。

### 【諫早・大村ブロック】

新規施設の影響やビジネス需要が堅調であったこと、また、V・ファーレン長崎のJ1昇格効果などにより、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比+12.5%となった。

### 【島原半島ブロック】

大型施設の閉館・休館の影響が大きく、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比▲10.1%となった。

### 【五島ブロック】

五島市の宿泊施設の閉館などにより、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比▲4.5%となった。

### 【壱岐ブロック】

4月及び6月に募集ツアーが堅調で、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比+17.7%と3期連続2桁パーセントの増となった。

### 【対馬ブロック】

天候不順による釜山航路の欠航が多かったものの、韓国人観光客の入込が引き続き対前年増となったことなどにより、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比+8.0%となった。

### 【参考】外国人観光客（宿泊客）の動向

4～6月期全体の外国人宿泊客数は対前年同期比+0.6%となった。

主要な国・地域別に状況を見ると、前期まで4期連続で対前年大幅増となっていた韓国は、引き続き対前年増となったものの、天候不順による対馬－釜山航路の欠航が多かったことなどにより、その伸びは鈍化した。また、中国は4月が、香港は6月が著しく増加したことから、4～6月期全体でも対前年大幅増となった。一方、台湾は、5月、6月に団体ツアーの集客が軟調で対前年大幅減となった。

(参考資料)





